

愛媛大学図書館

鈴鹿文庫貴重書展

期間 平成三〇年一〇月一七日（水）～一一月一二日（月） ※火曜休館

会場 愛媛大学ミュージアム エントランスホール

主催 愛媛大学図書館、鈴鹿文庫貴重書展実行委員会



愛媛大学図書館 鈴鹿文庫貴重書展

鈴鹿文庫は、京都にある吉田神社の社家で、吉田家の家老的役割を担っていた鈴鹿家の流れに位置する鈴鹿三七蒐集コレクションで、稀書が多いことでも注目されています。

鈴鹿三七の補訂により原形態を伝える貴重品として知られる『日次紀事』、「古典書写伝来の家」と呼ばれた鈴鹿家の仕事として特筆に値する『新撰字鏡』ほか、『徒然草』の作者「兼好」にまつわる驚きの資料、注目すべき『方丈記』の写本、桂園派の近世和歌資料等を展示します。

【おもな展示品】

鈴鹿文庫について

『日次紀事』 刊本 12冊
『勅板集影』 昭和5年

コーナー① —吉田兼好はいなかった—

近年、吉田兼好という人物はいなかったという説が提出されています。鈴鹿文庫の中にも「吉田兼好」に関する問題資料である『唯一神道名法要集』が所蔵されています。『唯一神道名法要集』には吉田神道こそが唯一の神道であるとして血脈（系図）が載せられていますが、そこにあり得ない兼好の名前が入れられているのです。

『神道大意抄』 写本 1冊 吉川惟足著
『唯一神道名法要集』 写本 1冊
『種生伝』 刊本 1冊 正徳2年刊

コーナー② —異本方丈記の世界—

鈴鹿三七は『方丈記』研究でも有名で、異本（略本）『方丈記』の諸本を書写蒐集しています。

『異本方丈記 中原本』 写本 1冊
『方丈記』 刊本 1冊 正保4年刊
『異本方丈記校合本』 写本 1冊

コーナー③ —吉田兼俱ほか吉田家の著述 附 増穂残口—

鈴鹿三七は、吉田家の家老であった鈴鹿家の一員であることを意識しており、そのために三七はみずから吉田家関係の書物を蒐集しています。また、吉田家の門人となったユニークな神道者・増穂残口の作品も蒐集、行方不明だった増穂残口の墓を最初に発見したのも三七でした。

『倭国軍記』 写本 1冊 吉田兼俱著
『神祇正宗秘要』 写本 1冊 兼右の奥書本を延宝7年に書写。連歌師里村昌純手沢本。
『つれづれ東雲』 刊本 2冊

コーナー④ —三七蒐集の稀少本—

《古典書写伝来の家—『新撰字鏡』の副本—》

天治本『新撰字鏡』 写本 5冊

連胤書写。安政年間作成。文字の配置、虫損の跡までを正確に複写する「古典書写伝来の家」の営為が見られます。本書は長く昭和写本として等閑視されてきたものですが、今回の展示のための調査で連胤作成の副本であることが確認されました。

『伴氏稿目』 写本 1冊 連胤が書写した伴信友の著作稿本目録
『夫木和歌抄抜書』 写本 2冊 大阪の連歌師、西順自筆。木村兼葭堂旧蔵
『狂歌百鬼夜興』 刊本 1冊 文政12年刊、菊廼屋真恵美編

コーナー⑤ 近世和歌資料 —鈴鹿連胤と香川景樹（桂園派）—

連胤は香川景樹の門人でした。

『桂園宗匠撰草稿』 写本 3冊
『桜十番歌結』 写本 1冊
『都のつと』 写本 1冊